長崎国際大学教育基盤センター紀要　第６巻　2023年３月　　45頁～55頁

事 例 報 告

持続可能なスポーツ指導に資する 長崎国際大学教職課程学生の評価観に関する調査結果

浦郷　　淳*・田中　　誠*・宮良　俊行**・乙須　　翼*・神野　周太郎*
（＊長崎国際大学　人間社会学部　国際観光学科＊＊聖カタリナ大学人間健康福祉学部 健康スポーツ学科）

An Evaluation of Nagasaki International University’s Teacher-training Course Students' Contribution to Sustainable Sports Instruction

Atsushi URAGOU* ,　Makoto TANAKA*,　Toshiyuki MIYARA**,　Tsubasa OTOSU* and Shutaro JINNO*
＊Department of International Tourism,　Faculty of Human and Social Studies,　Nagasaki International University
＊＊Department of Health and Sports,　Faculty of Health and Welfare Human Services,　St. Catherine University

Abstract
We analyzed that the result of a questionnaire and interview targeting students who aim to become teachers who are highly likely to be involved in sports instruction in the future. The survey was conducted on the experience of club activities and sports clubs for students taking a teacher-training course at Nagasaki International University.
This results focused on three main areas: 1) students' doubts about instructors' assessment methods and encourage methods, 2) what students perceived as important in evaluating club activities, 3) what students think is important for students to be able to continue playing sports for a long time.
As a result, we were able to conclude rather than forcibly leading them　the students and instructors place value on　working together toward a common goal　and maintaining fairness .
The survey results are published as a leaflet.

Key Words
Doubts about Evaluation, Students' Awareness of Club,　Sustainable Sports Instruction

要　旨
本稿は、将来スポーツの指導に携わる可能性の高い教師を目指す学生を対象としたアンケート調査・インタビュー調査の結果である。長崎国際大学において教職課程を履修する学生に対し、自身の部活動・スポーツクラブでの経験について調査を行った。
結果として、第１に、学生の中には指導者の評価の方法や言葉かけなど、評価に関する疑問は少なからず存在すること。第２に、部活動の評価で大切だと学生が捉えていることが何であるのか。第３に、子どもがスポーツを長く続けられるために何が大切だと考えているのかということを示した。最後に、調査結果をまとめ、指導者の立場として、強引に引っ張っていくのではなく、共通の目標に向けた取組と評価の項目を共有し、公平性を保った上で行っていくことに価値を置いていると集約した。
なお、調査の結果は、リーフレットとして公表している。

キーワード
評価への疑問　部活動に対する学生の意識　持続可能なスポーツ指導

１　はじめに

生涯スポーツと言われるように、成人後のスポーツの必要感は高い。その入り口ともいえる学校でのスポーツとの出合いはとても重要であり、指導者側が適切に接することは、対象のその後のスポーツとの付き合いを左右する。故に、スポーツの競技者は指導者によって変容することは、疑いようのない事実なのである。

実際に指導を行う場面では、指導者は様々なスキルを用い、指導に携わる。この際、指導者側が適切な評価観を有することが有用である。対象を評価している観点を自覚することで、何を指導する必要があるのかを判断することができる。そして、その後の指導も変化していくことが考えられるためである。

本稿は、将来スポーツの指導に携わる可能性の高い教師を目指す学生を対象とした。長崎国際大学（以下、「本学」という。）において教職課程を履修する学生に対し、自身の部活動・スポーツクラブでの経験について、アンケート調査及びインタビュー調査を行い、その結果をまとめたものを報告するものである。

２　調査の概観

本報告は、本学教職課程の学生へのアンケート結果を分析したものである。調査対象を、教職課程の学生への着想としたのは、将来スポーツの指導に携わる可能性の高い教師を目指す集団だからである。そして、学校で行われる幾つかの評価の考え方に対し、特に、相対評価と絶対評価の評価観が本活動に関係するからである。

学校の授業で行われる評価は、小学校から大学まで到達度評価であり、いわゆる絶対評価に分類される。しかし、こと部活動等となると、あらゆるデータは駆使されたとしても、指導者を中心に出場者を選抜する絶対者準拠評価や相対評価が用いられる。これらの評価方法は、学校で行われているものの、生徒にとっては無意識的に受け入れられていることが多い。さらに指導者側も、十分に意識できているとは言い難い。大学で学修していたとしても、その具体的な場面が想定できないのである。

そこで、本調査では、将来スポーツの指導に携わる可能性の高い教師を目指す本学学生のスポーツ指導における評価観を明らかにすることを目的とし、以下のことを行う。

（１）被評価者の具体的な活動場面における心情をアンケートやインタビューを通して明らかにする。学校、特にスポーツの活動時において実施された評価場面と評価方法を分析し、その特徴的な点を事例として明らかにする。現在の学校における評価研究は、絶対評価の方法が中心であり、評価が使い分けられているという面には焦点があたっていない。複数の評価観を基にそれらに接する生徒が、教師の指導をどのように捉えているのか、その一部を明らかにする。

（２）学生への調査から、指導を受ける側の立場の心情面が明らかになる。これらを整理し、①評価の違いを意識でき、②評価場面の違いを意識でき、③具体的場面を意識できるようにしていく。この事で、スポーツの指導場面に用いられる評価を具体的に理解でき、指導に反映していけるようにしていく。

このようにして得られた今回の成果は、その評価観の自覚を促すものになる。自覚を促すことで、スポーツの場面で見られる絶対者（指導者側）に準拠した評価の場面で、何を評価したのかを理解できるようになる。結果、ハラスメントや体罰の防止にもつながっていく。特に本学教職課程卒業者は、保健体育科免許の取得や部活動指導、外部指導員として指導に携わることを希望するなど将来的な指導者を目指す学生も多い。このような学生に対して、スポーツ指導場面での評価観の自覚を促すことで、対象に応じた関わりができる指導者となる可能性を有することになる。

３　調査の概要

⑴**調査期間**　令和３（2021）年11月～12月

⑵**回答数**　38名（教職課程履修者のうち任意）

⑶**調査方法**　第１段階として、オンラインを用いて教職課程履修者にアンケートを実施。その後、同意を得た学生に対し、直接インタビューを実施した。

アンケートの調査項目・インタビューガイドは、長崎国際大学人間社会学部国際観光学科研究倫理委員会の審査を受け、承認（R3-F44）された手続きに沿って実施した。アンケート調査時は、個人の特定がなされないこと、回答の有無による不利益がないこと、アンケートの同意については、回答を行うことで同意を得たと判断する旨等の説明を行った上で実施した。アンケート後のインタビューへの同意を得た学生には、再度調査の説明を行い、直筆による同意書を得た上でインタビューを実施した。

⑷アンケート項目

○　部活歴・クラブ歴に関するアンケート

①中学校時代に取り組まれていた部活動・クラブ歴があればご記入ください。なければなしとご記入下さい。

②高校時代に取り組まれていた部活動・クラブ歴があればご記入ください。なければなしとご記入下さい。

③大学時代、取り組まれている（いた）部活動・サークル活動があればご記入ください。なければなしとご記入ください。

○評価への意識調査

④部活動の顧問の先生による部活動内での評価はあると思いますか。（クラブチームの指導者による、クラブ内での評価はあると思いますか。）

○評価場面

⑤「部活動の顧問の先生による部活動内での評価はあると思いますか。（クラブチームの指導者による、クラブ内での評価はあると思いますか。）」で「ある」と回答された方に伺います。「評価がある」とするとどのような場面でどのような評価があると思いますか？

⑥部活動やクラブチームの中での評価で疑問に思ったことはありますか。

○評価への疑問

⑦「部活動やクラブチームの中での評価で疑問に思ったことはありますか」の質問に、「はい」と回答された方に伺います。それはどのような場面で、どのようなことですか。

○評価で大切な点

⑧部活動の顧問の先生による部活動内での評価ではどのようなことが大切だと思いますか。（クラブチームの指導者によるクラブチーム内での評価ではどのようなことが大切だと思いますか。）

⑨部活動の顧問の先生（クラブチームの指導者）は、生徒・学生が部活動・クラブを長く続けるためには、どのようなことを大切にしなければならないと思いますか。

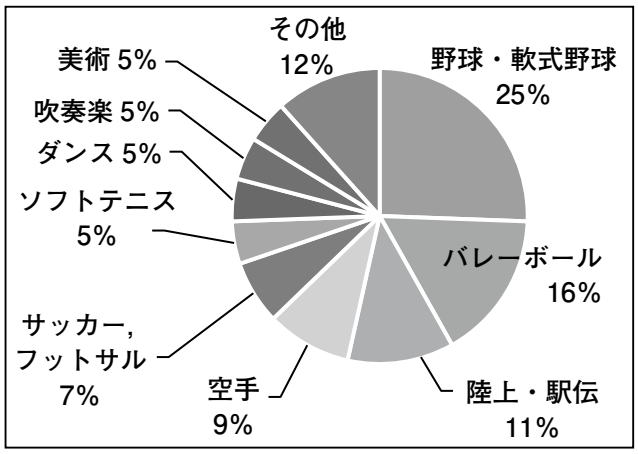
本アンケート後、了解を得た学生に対し、次の項目を用いたインタビューを実施した

①評価についての疑問や感じられていることがありましたら教えてください。
②部活動の評価で疑問に思ったことを教えて下さい。
③どんな点が疑問でしたか。
④部活動の評価で大切な事は何だと思いますか。

４　アンケート調査結果

⑴中学校時代の部活動・クラブ歴

図１からは、中学時代に取り組んでいた部活動は14種類の回答が見られた。何も取り組んでいなかった学生は見られず、何かしらの部活動に所属していたことがわかる。また、本学強化指定部[1)]に類する部活動で活動していた学生の割合が半分を超える結果となった。



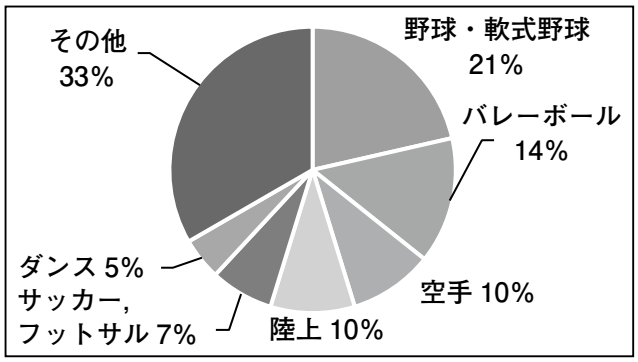
その他：テニス・バスケットボール・
バドミントン・競泳・柔道

図１　中学校時代の部活動・クラブ歴

⑵高校時代の部活動・クラブ歴

図２からは、高校時代に取り組んでいた部活動は18種類の回答が得られた。中学校よりも多岐に渡っているのと同時に、何も行っていない「なし」の回答も見られた。

本学強化指定部に類する部活動で活動していた学生の割合は半分を若干超えているものの、中学校の割合からは減少した結果となっている。



その他：ソフトテニス・テニス・バドミントン・
ハンドボール・ 演劇・写真新聞・文芸・
応援・家庭科・弓道・なぎなた・吹奏楽・
美術・なし

図２　高校時代の部活動・クラブ歴

⑶大学時代の部活動・サークル活動

図３からは、大学入学後は部活動に所属していない学生が約４分の１見られ、部活動から距離を取っている現状が推察される。また、学生が所属する部活動の多くは強化指定部であり、強化指定部に属する学生が部活動として取り組んでいる場合が多いことが推察される。

さらに、図１～３の継続性について整理すると、有効回答者36名に対して、次のような結果となった。

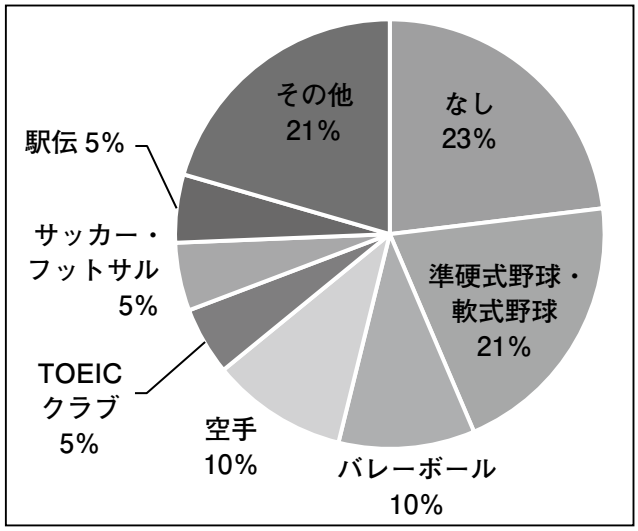
①中・高・大と継続（22名）
　野球8（うち軟式3）・空手4・バレーボール4・陸上2・サッカー2ソフトテニス1・美術1

②中・高と継続（7名）
　バレーボール2・サッカー・テニス・吹奏楽・ダンス・野球

③高・大と継続（1名）
　ハンドボール

④大学では未入（6名）

中・高・大と継続する部活動、中・高と継続する部活動を見ると、運動部が多くなっていることが読み取れた。



その他：ソフトテニス・ダンスサークル・トライアスロン（マネージャー）・バドミントン・ハンドボール・開国祭実行委員・美術

図３　大学時代の部活動・サークル活動

⑷部活動の顧問の先生による部活動内での評価

図４からは、４分の３を超える学生が、部活動での評価があることを認識していることがわかる。

このうち、「評価がある」とするとどのような場面でどのような評価があると思うかを自由記述による回答を得た。その記述での結果を筆者らで分類（①～⑥）したものが図５である。学生が部活動での評価がある場面を多岐に捉えていることが読み取れる。

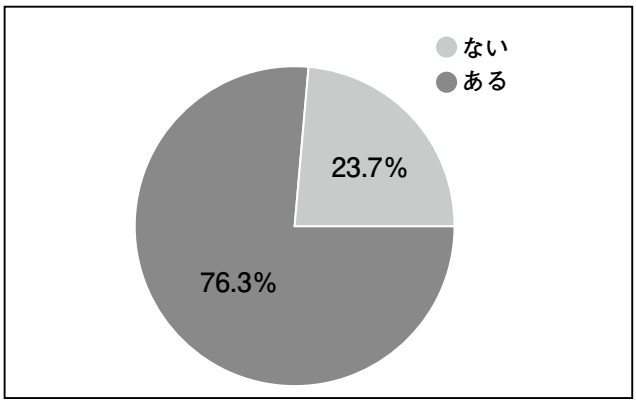


図４　顧問の先生による部活動内での評価

①選手選抜
- ア　試合に出る基準
- イ　メンバー選出のための評価
- ウ　ベストなメンバーを選ぶ時
- エ　試合に出れるか出れないか
- オ　選手の調子と試合に使うかどうかの評価
- カ　試合形式で行った時に、どれだけポイントを取れているのか、試合の調子が良いかを見て判断し、試合に出すかどうかを見ている。
- キ　試合に出るメンバーの選考、練習態度への評価
- ク　チーム選抜等
- ケ　練習試合や本番の試合などでの起用

②試合の過程・結果
- ア　試合でチームの勝利に貢献できる点
- イ　練習や試合の結果や、態度
- ウ　試合での成績　練習の取り組み
- エ　プレー中
- オ　得点のシーン
- カ　得点の前のシーン
- キ　記録
- ク　結果を出した時

③日常の練習態度
- ア　活動だけでなく、テニスコートをきれいに保つために掃除を積極的にしたり、ボールの管理をしたりその他の作業をしっかりやっているか、さぼっているかを見ていたと思う。
- イ　積極的な参加、または部活に対する情熱、技術
- ウ　練習態度など
- エ　プレー以外にも日常での振る舞い

④教師の指導場面
- ア　部活動の顧問の先生が上手な人にしか教えないときがあったから。
- イ　大会後に声をかけていただいたから。
- ウ　指導を受ける場面
- エ　悪いとこと良いところをきちんと伝えてもらえる。

⑤個人の資質・技術
- ア　技術面
- イ　リーダーシップ、言動など指導対象になりうること全般
- ウ　技術の向上

⑥進路
- ア　推薦、人間性

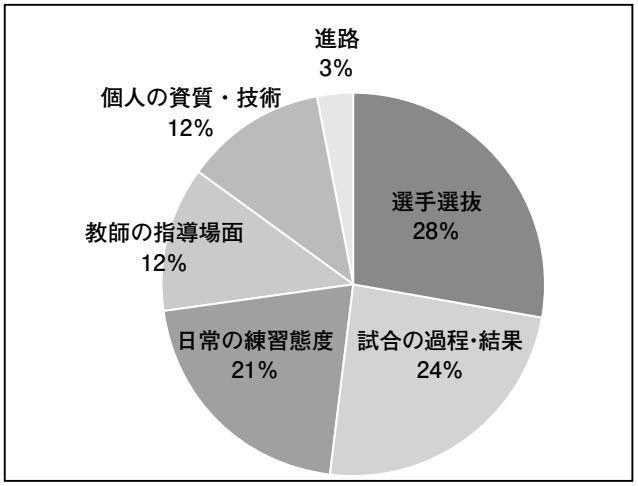


図５「評価がある」とする場面

⑸部活動やクラブチームの中での評価への疑問の有無

図６は、部活動における評価への疑問の有無を示したものである。４割程度の学生が疑問をもっていることがわかる。このうち、どのような場面で、ど

のような疑問をもったのかを自由記述による回答を得た。その記述を筆者らで分類した（①～⑤）。

結果からは、①評価方法②指導者の言質③選手選抜④練習日数⑤進路に分類できた。内容を見ると、評価方法が明確でないが故に出てきた疑問や言質の齟齬など、指導者の説明が十分に伝わらない場面で疑問が生じていることが想定される。また、個々への対応の違いによっても疑問が生まれていることから、指導者とのコミュニケーションについて疑問をもっている学生の存在が想定される。

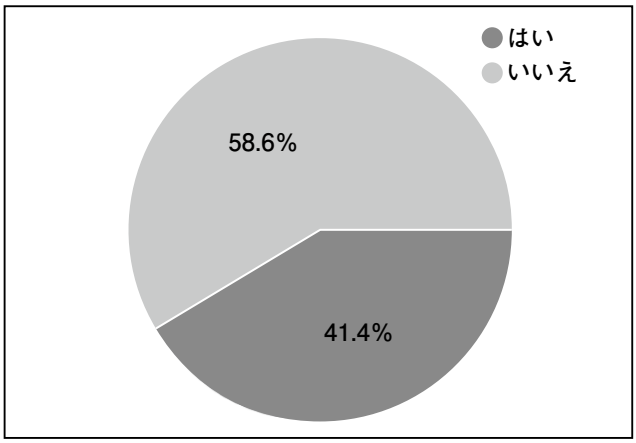


図６　評価への疑問の有無

①評価方法

ア　顧問の好みの選手が評価が高い点

イ　実績だけで現在の実力を評価されていない時

ウ　コンディションを加味していない時

エ　自分の考えと合わなくてそれを評価された時

②指導者の言質

ア　前回と言ってることが異なる場合

イ　矛盾がある時など

ウ　監督に好き嫌いがある。

③選手選抜

ア　紅白戦や練習試合で結果も残していないし、練習もサボったりするのに、何故試合に出ているのか分からなかった。

イ　メンバー選考で納得できない人がいた。

④練習日数

ア　正直毎日練習はきついから、ズル休みすると怒られる。

⑤進路

ア　推薦、学校などの活動

⑹部活動の顧問の先生による部活動内での評価で大切だと思う点

ここでは、部活動の顧問・クラブチームの指導者による評価で大切だと思う点について、自由記述によって得た結果を筆者らで分類し、整理した（①～⑥）。なお、（　）内は人数を示す。

結果を見ると、①平等性②総合的な評価③練習態度④人間性⑤信頼性・妥当性⑥その他と分類された。学生の回答は自身の経験に基づくものである。平等に見ることや、単なる結果で見ず、練習態度まで見ることの大切さ等が大切であることに学生の意識があることが読み解ける。

①平等性

ア　全ての人を平等に見ること（７）

イ　公平性（感情的にならずに公平に指導することなど）（３）

ウ　生徒個々を尊重して、無理のないように配慮すること。部活内でのダイバーシティを大切にすること。障がいをもつ児童・生徒の健全なクラブ活動を推進することなど。

エ　贔屓しないこと

オ　差をつけすぎないこと

②総合的な評価

ア　その時の結果などで評価するのではなく、それまでの過程まで考えた評価が大切

イ　試合の結果だけをみるのではなく、練習の姿勢や練習以外の行動をしっかりと含めた評価をできることが大切だと思う。

ウ　現在の実力だけでなく将来性や人格なども考慮する必要がある。

エ　選手の気持ちを理解すること

オ　学業との両立まで視野に入れること

カ　ミスをどのように改善するかを考えること

③練習態度

ア　練習への取り組み（４）

イ　実力やその人の日頃の行いを考慮する必要があると思います。

ウ　技術や情熱、参加度を加味すること

エ　しっかりと真面目にオンオフの切り替えができて、練習に取り組んでいるか。

④人間性

ア　練習だけでなく、生活など日頃の頑張り（2）
イ　一生懸命取り組んでいる人や、日頃の生活が良い人を見る、人に対しての思いやりなど、人間性が大切だと思います。
ウ　現在の実力だけでなく将来性や人格なども考慮する必要がある。
エ　人間性や人として当たり前の行動や発言などの評価
オ　出来る人と出来ない人を見分けて教えてあげること
カ　生徒の主体性
キ　ネガティブなことを言わないこと

⑤信頼性・妥当性
ア　子供たちが納得の行くような評価
イ　今の実力を正しく評価すること
ウ　1人ではなく複数人で評価し整合性を高めること

⑥その他
ア　コミュニケーションや人との関わり方
イ　大切だと思う

⑺指導者が、児童・生徒・学生が部活動・クラブを長く続けるために大切にしなければならないと思う点

ここでは、部活動の顧問・スポーツの指導者が、児童・生徒・学生が部活動・クラブを長く続けるために大切にしなければならないと思う点について、自由記述によって得た結果を筆者らで分類し、整理した（①～⑥）。

結果を見ると、①指導方法②楽しさを伝える③公平性④個に応じた指導⑤主体性⑥その他に分類された。コミュニケーションを含めた的確な指導法が部活動・クラブを継続的に取り組むためには必要であること、楽しさが継続の根源となること、公平に関わりながらも個々の課題にも向き合っていくことを大切に考えていることが読み解ける。

①指導方法
ア　コミュニケーション（2）
イ　そのスポーツの面白さを実感させる。指導にメリハリをつける。（2）
ウ　休みの日をしっかりと設ける。練習時間を長く設けない。
エ　チーム内の雰囲気の変化などに気を配ること。先生が手本となるような行動を示すこと
オ　今の時代は、褒めて伸びる子が多いと思うので褒めることを多くしてほしい。
カ　生徒への思いやりや声かけ、部活動の雰囲気を良くするように努めること
キ　成長していることを感じさせるために、記録をつけたりすること。地域と連携し、交流を深めることで、楽しむことも倍楽しめると思う。
ク　信頼関係
ケ　反省してもらうことは必要でも、ネガティブなことで生徒を責めないこと
コ　生徒の体調に十分気を配り、かつ活動がストレスにならないようなメニューを組むこと
サ　楽しくなくても続けることの大切さを伝えること

②楽しさを伝える
ア　楽しませること・楽しさを伝えること（6）
イ　生徒が楽しいと思えるような環境を作ること
ウ　競技の楽しさを感じさせること
エ　スポーツの楽しさや奥深さを教えること

③公平性
ア　自分の気分で生徒への指導を変えたり、理不尽なことを指導したりしないこと
イ　みんな平等に評価してくれることはもちろん、児童・生徒のことを1番に考えることが大切だと思う。
ウ　体罰や暴言などを言わず、きちんと選手一人一人を見て評価してあげること
エ　贔屓をしないで公平に指導すること

④個に応じた指導
ア　各生徒の性格に応じた教育や指導
イ　個人を尊重した対応、指導
ウ　意思の尊重　無理強いをしないこと
エ　人間関係の調整、部内でのアンケート調査など、匿名性を重視して第三者を挟んだ上で行う。多分、部活で辞める多くの原因は人間関係だと思うから。他にも児童・生徒が勉学に励むことができるよう部活動を強制しない、または

練習量を適当に設定すること

⑤主体性

ア　自分で考えて、競技をすること

イ　顧問の言いなりで動くようにはしないこと

ウ　自主性

⑥その他

ア　記録だけで評価せず、他の物事でも評価する

イ　楽しく且つやるときはやるクラブチーム

５　インタビュー調査の結果

４で示したアンケート調査の後、インタビュー調査に応じることを可とした学生に対して、個別のインタビュー調査を実施した。15名からの結果を得た。ここで得られた結果を筆者らで分類し、ラベル付けを行った。ここでは、ラベルとその特徴的な意見（□内）を示す。

⑴評価についての疑問や感じられていること

ここでは、①評価の手法が見えにくい②評価の根拠③評価者による評価の違い、という3つに整理を行った。ここでの記述からは、評価の信頼性や妥当性といった点での記述が目立ち、評価方法、基準、評価者の評価力量を明確にすることの必要性が読み取れた。

①評価の手法

・水泳習ってたから得意だったんですよ。けど、評価が、皆勤賞で水泳も滅茶苦茶速くて、他の人に指導とかもしてたんですけど。２でした。それがちょっと疑問でした。
・授業で特別運動できない人のことの成績とかまでわかんないからあれだけど、やっぱり目立つ人が高い評価になりがちなのかなとか。
・その時の成績っていうよりは、それまでの、なんか「この子はこういうことをしてる」とかが結構左右されそう。

②評価の根拠

・評価、SとかA。授業の評価。授業によっては、課題をいっぱい出しているのに、評価に出ていない。２０％いかない。
・レポート点が2割しかないのに、毎回レポートで面倒な所がある。
・完璧に出してもめちゃめちゃ低い評価出たりする所。

③評価者による評価の違い

・評価。先生によりますね。学校は全て楽しいかどうかも。
・学校として基準評価の基準は決まってると思うんですけど、いざ評価されるってなったらその先生によって評価が変わってくるのかなと思います。
・先生によって、生徒の評価も変わってくると思う。

⑵部活動の評価で疑問に思ったこと

ここでは、①指導者の資質・専門性②男女差③評価の方法、という3つに整理を行った。これらの記述からは、部活動となるとより指導者の専門性やコミュニケーション能力が求められている事や、競技特性に応じた評価の在り方、そして選手選考への疑問が強く残っていることが明らかになった。

①指導者の資質・専門性

・（未経験の子を含めた）3人で団体を組むことがあるんですけど、その中に入れないその（未経験の）

子が先生から教えてもらえず、けど、試合に出ても残念だったねとか、評価がされない事に疑問を感じました。
・もうちょっと専門性のある先生がいなかったのかな？と思ったことあります。
・怪我をしないで楽しく競技ができるんじゃないかなと思ったので。もうちょっと専門性を持った先生、外部講師の先生とか来てくれた方が良かったんじゃないかなと今思います。
・指導者の方達が結構練習も毎日見てくれている。
・一緒に練習している監督だと、結構評価が合っている。
・監督が一緒にやるってなかなかないって思うんですけど。一緒に活動することでその中で色々会話とかもするみたいなので、調子のこととか「まあ成績が悪いのは結構精神的にこうだから」っていうのを聞いたりするから。
・アドバイスはあるけど、やっぱり年が離れてると会話も少ない。

②男女差

・自分は男女一緒にする部活なので、何か男子の方が有利だと思います。
・男子の基準に合わせた練習方法が多いように感じた。

③評価の方法

・なんか毎日毎日真面目に練習に行っていても、週に一回しか来ない人がすごく評価されたりした時があったので、それについてはちょっと憤りを感じました。
・先生の言うことをちゃんと聞く人が部長と副部長に選ばれたから、関係、技術関係ない選手の使い方、誰からの評価？
・選手の選び方
・部活の評価はどうだったか…できるやつが出て、できんやつがレギュラーにはならない。上級生だからメンバーはいるとかもない。

⑶部活の評価で大切なこと

ここでは、①平等に見ること②技術・実力だけではなく、練習態度や日常の姿も評価すること③状況に応じた選手選出、という3つに整理を行った。これらの結果からは、日常的な生徒との関わり方の大切さや選手選考についての妥当性や説明責任に言及するような回答が見られた。

①平等に見ること

・生徒をフラットな目で見ること　・一回平等に見て評価すること
・平等に見ること　・ひいきをしない

②技術・実力だけではなく、練習態度や日常の姿も評価すること

・実力と練習態度でやった方が良い。
・技術だけを見るんじゃなくて、周りの人への対応、接し方とか、準備とかできている。プレイに関係ないところも、指導する立場はちゃんと見て評価するべき。
・最終的には結果だと思うんですけど、やっぱりその見ていくかでこの子は自分が足りないものは何な

のかっていうのしっかり見て、あ、こういう練習しているなっていうのは、そのままちゃんと見てあげて、結果以前もやっぱり努力をしてるところを認めてあげるとかいうのが大切なんじゃないかなと自分は思います。
・成績だけじゃなくてその人が普段何をしているかとか。
・どれだけ日頃やってるかだと思います。
・全体の評価。性格とかもだし、結果とかも全部含めた上で評価すべきだと思います。
・練習の参加率っていうか自分の部に関しては選考がはっきりしている。就活でずっと来れてない人は、ちょっと今回メンバーから外れちゃったんですけど、もう一人の公務員系のずっと対策とかもやってたから練習なかなか参加できなかったからっていうことだったからからわかりやすい。この来てない、来ているの差が、３年４年であって、来てないから選ぶことはない。だからわかりやすい。それがあるなら評価しやすい。けど、来ているけど練習も滅茶苦茶意欲的だけどタイムが遅いとか。そういう選手が本気かどうかが問題になる。
・部活動にしろ、何にするにも人間性の向上
・生徒を平等に見て、自分が頑張れる環境を作ってもらうことです。
・強いだけではなくて、生活態度とかを見るかな。
・実力もだけど、人間的な魅力

③状況に応じた選手選出

・選考会ってあるけどその時だけの結果で決めない。チーム内の目標によると思うんですけど、上位を目指したいんだったらやっぱり４年生だからっていうのにこだわるんじゃなくて成績によって決めることが大事になるかなって思います。
・タイムが同じ時は経験的に多い４年生を選ぶのかなと思うけど。なかなか難しい。その立場になった時には難しいかなって思うけどチームの目標によりそう。
・実力主義って多分言葉悪いけど、勝つメンバーを選ぶ。
・団体戦とかチーム戦なら実力があってあるけど、自分しか見えない選手よりは、まあまあだけど周り見て動ける選手を使ってほしい。

６　全体考察

アンケート調査・インタビュー調査の結果を考察する。第１に、学生の中には評価に関する疑問が少なからず存在し、部活動に関する疑問としては評価方法や指導者の言質、選手の選抜等においてそれが顕著に表れていた。第２に、部活動の評価で大切だと学生が捉えている点は、指導者としての専門的見地から、日常生活の様子も含めて助言、評価する事や日常の部活動においては平等に見ること、目標や状況を示した上での選手起用を望んでいることなどが明らかになった。第３に、教職課程の学生が先生になった時に、子どもがスポーツを長く続けられるために大切だと考えられる点として捉えていることは、指導法を明確にもつことやスポーツの楽しさを伝えていくこと、個に応じた指導を大切にしながらも公平性を保つこと、さらには競技者の主体性を大切にすることであると考察される。以上のことからは、学生は、指導者の立場として、共通の目標に向けた取組を一緒に取り組んでいくことが大切だと考えていることが読み取れた。具体的には、生徒を強引に引っ張っていくのではなく、目標や評価の項目を共有し、公平性を保った上での専門性に基づく適切な指導や個に応じた指導を行うことに価値を置いていると集約される。

７　おわりに

以上のような結果をもとにして、リーフレット（図７）を作成した。学生に配布するとともに、

オープンキャンパス等を通じて公表することができた。

今後は、ここで得られた知見を学生が具体的な指導場面に活かせるよう取り組んでいきたい。

本研究は、長崎国際大学学長裁量経費「令和３年（2021年）度SDGs 推進奨励 制度」を活用して実施した。用いたアンケート項目については、長崎国際大学人間社会学部国際観光学科の研究倫理委員会の審査を通過したものである。

注）

１）長崎国際大学の令和３年度の強化指定部は、男女バレーボール部、男女テニス部、空手道部、ゴルフ部、男女ソフトテニス部、駅伝部、アーチェリー部、硬式野球部となっている。

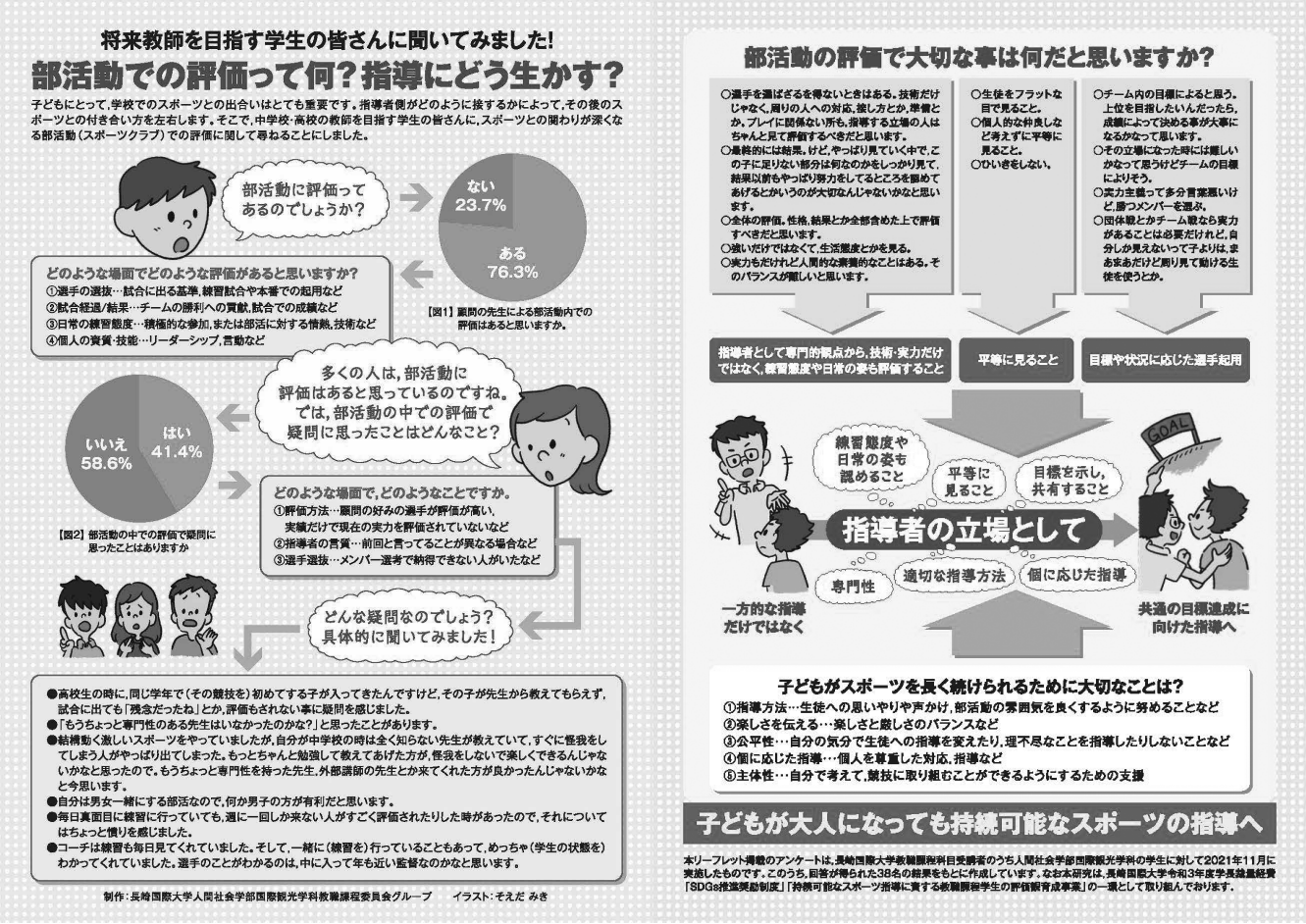


図７　アンケート結果をまとめて作成したリーフレット